

長畝ふるさと通信

【2016年3月号】

■ 春作業が始まりました

＜江流＞ 春作業の始まりは「江流」から。田んぼの排水路(川)に溜まった泥や砂利を取り除いて、水の流れを良くしてやります。集落総出で行うこの作業は1日掛かり。冬の間になまった身体にムチ打ちながらひたすらスコップで泥を上げていきます。多くの生きものたちも住み処の静寂を邪魔されて少々ご機嫌斜めのご様子です。



＜畦塗り＞ トラクターのアタッチメントを畦塗り機に付け替えて、畦を塗ります。畦の法面の土を細かく削りながら、その土をローラーで畦に塗りつけ土の壁を作っていきます。これで田んぼに水を張っても漏水しなくなるのです。

＜耕耘＞ 畦を塗り終えた田んぼに水を張って田んぼ全体の土を荒起こしする耕耘作業を行います。トラクターのスピードはほぼ人が歩く速度です。はっきり言って退屈な作業ですが…



組合の田んぼの枚数は大小合わせて約500枚。畦塗りと耕耘作業だけでも一ヶ月近くかかります。トラクター1台500万円也、身体の負担は軽減されましたが、経費はふくらむ一方で…

■ 種まき準備も着々と進んでいます



＜浸種＞ 温湯消毒した種もみを水槽に入れて冷たい水に浸します。休眠中の種もみはここでゆっくりと水を吸収し、積算温度100度で目を覚ますそうです。種まきの前に30度のお湯に入れ替え、約2日で小さな芽が出ます。ここでの失敗は禁物なので、緊張する瞬間です。

＜苗箱＞ 今年の播種数は17,500箱。育苗施設に保管しておいた苗箱を半日掛かりで施設の外へ出しました。この苗箱も相当の年代物ですが、1枚300円位しますから、全部買い換えると500万円以上掛かってしまいます。



＜肥料など＞ 田んぼの肥料が入荷しました。その数およそ2,000袋650万円也。その他に除草剤やら育苗用の土などの資材費は1年間で2,000万円も掛かります。固定費は膨らむ一方、コメの価格は…アベノミクス効果は微塵も感じることが出来ません。つつい愚痴が出てしまいますがご勘弁。

■ 28年産も「特A」を目指して！

日本穀物検定協会が発表した「全国コメの食味ランキング」で佐渡産コシヒカリは27年産も最高ランクの「特A」を頂きました。このランキングは協会が選抜した食味評価エキスパート20人が139産地品種について試食試験を実施・評価したもので、基準米よりも特に良好なものを「特A」としています。ちなみに27年産の「特A」は初受賞の青森「青天の霹靂」をはじめ46銘柄。佐渡産は10年以上連続で「特A」を頂いています。28年産もちろん「特A」を目指して1年間頑張りますので、応援して下さい。

おかわりは自由です！